

## 会 報

### 平成20年度第1回日本公衆衛生学会理事議事録

1. 日 時 平成20年4月22日（火）13:30～16:15  
 2. 場 所 東京厚生年金会館  
 3. 出席者 理事長 實成文彦  
 学会長・理事 畝 博  
 理 事 足立己幸 遠藤 明  
 大井田隆 岡本浩二  
 児玉和紀 小林廉毅  
 近藤健文 篠崎英夫  
 澁谷いづみ 高岡道雄  
 中垣晴男 中川秀昭  
 中村好一 平野かよ子  
 村嶋幸代 柳川 洋  
 吉田勝美（19人）  
 監 事 岡崎 勲 宮武光吉  
 （2人）

#### 委任状提出者

- 副会長 横倉義武 平田輝昭  
 阿部 亨（3人）  
 理 事 相澤好治 阿彦忠之  
 五十里明 上島弘嗣  
 岸 玲子 三浦宣彦  
 本橋 豊（7人）

#### オブザーバー

車谷典男（奈良県立医科大学 教授）

現在理事数29人 出席者19人 委任状提出者10人  
 学会規定第13条第1項による定数に達していることを確認の後、實成文彦理事長が議長となり開会を宣した。議事に先立ち實成理事長から挨拶があった。

#### 議事録署名人の選出

議事録署名人に柳川 洋、吉田勝美理事が指名された。

#### 議 事

##### 第1号議案 第67回（平成20年度）日本公衆衛生学会総会について

畝博学会長から資料に基づき、プログラム案等について説明があった。

1. プログラム案として、学会長講演、特別講演2題、招待講演2題、メインシンポジウム、サテライトシンポジウム5題、公衆衛生行政研修フォーラム3題、公衆衛生行政研修2題、教育講演4題、フォーラム3題、市民公開講座2題、学術会議分科会を予定しているが、4月末までには確定する。
2. 4月1日から演題の募集および抄録提出の受付をはじめたが、今のところ問題なく進んでいる。

3. シンポジウムと一般演題発表の時間帯を区別することを考案中で、学術部会で検討する。

以上につき、本議案は了承された。

##### 第2号議案 第68回（平成21年度）日本公衆衛生学会総会について

車谷典男次期学会長から、次の説明があった。

1. 6月中に運営の委託業者を決める予定である。
2. コアメンバーで打ち合わせを進めており、そこで学会のテーマ、基本方針をきめる。

以上につき、本議案は了承された。

##### 第3号議案 第69回（平成22年度）日本公衆衛生学会総会について

大井田隆理事から、1月の理事会での意向に従い東京都と相談した結果、ほぼ東京都で開催できる見通しがついた旨の報告があった。

實成理事長から、第69回総会は大井田隆学会長が東京都で開催することを諮り、本議案は了承された。

また、大井田理事から総会運営基金は19年度予算どおり取り崩したが、この基金は前回の東京総会の余剰金であることと東京開催では会場費が多額になると思われるので、できればこの基金を69回総会分として使わせて頂きたいとの申し出があった。

これに対し、会計担当の遠藤明理事から、来年22年度予算を作成するときに独立性はなくなるが、何らかの形で支援するよう予算化する提案があり、了承された。

##### 第4号議案 奨励賞受賞者について

畝 博奨励賞選考委員長から本日午前中に開催した奨励賞選考委員会の結果が下記のとおり報告された。

實成理事長から本年度の奨励賞については選考委員会の結果を踏まえ次のとおり表彰したいので、本理事会においてご了承いただきたいとの提案があり了承された。

1. 田中英夫 医療機関における喫煙対策と禁煙支援の推進に関する研究
2. 井後純子 ライフコース疫学に基づいた都道府県健康増進計画と歯の健康づくり活動の推進
3. 山口 亮 原因不明の健康危機に対する対応実践とその教材化
4. 河野あゆみ 在宅虚弱高齢者を対象とした介護予防支援に関する研究

##### 第5号議案

1. 日本医学会評議員、連絡委員、医学用語委員の選出について

實成理事長から改選されるまで現在の役員にお願いする旨提案があり、了承された。

日本医学会評議員は近藤健文理事，連絡委員は岸玲子理事，医学用語委員は小林廉毅理事，代委員は甲斐一郎編集委員長にお願いすることとした。

## 2. 公衆衛生関連学協会連絡協議会（仮称）の設立と日本学術会議（パブリックヘルス科学分科会）との連携について

パブリックヘルス科学分科会の副委員長でもある實成理事長から「公衆衛生関連学協会連絡協議会」設立について説明があった。

検討の結果，今回はアンケートの依頼であることから，設立には賛成である旨回答することとした。

## 3. 倫理委員会について

大井田理事から，實成理事長からの要望もあり，「倫理に関する指針」と「会員の研究倫理に関する規定」という表現では研究倫理審査委員会との関係で紛らわしいので，「会員の倫理・行動規範に関する指針」と「会員の倫理・行動規範に関する規定」に変更してはどうか提案があり，了承された。

## 報告事項

### 1. 委員会報告

#### 1) 編集委員会

小林廉毅編集担当理事から以下のような報告があった。

(1) 55巻1号からA4判になった。

(2) 投稿数が減少してきたが，3月から回復してきた。

(3) 投稿規定に倫理審査委員会の承認について明記した。

#### 2) 21世紀の公衆衛生研究戦略委員会

柳川委員長から4月15日の委員会の報告と報告書の説明，本橋副委員長から小委員会の報告と11月のフォーラムの説明があった。

#### 3) 地域保健委員会

阿彦忠之委員長欠席のため，大井田理事からホームページに掲載した「新型インフルエンザがわかる啓発スライド」について報告があった。

#### 4) 生涯学習・研修委員会

上島弘嗣委員長欠席のため，大井田理事から2月28日の委員会報告と，8月に開催予定の論文の書き方研修会について説明があった。

#### 5) 公衆衛生看護のあり方に関する委員会

村嶋幸代委員長から，9月9日のシンポジウム，10月24日総会フォーラム，日本保健師連絡協議会について報告があった。

#### 6) 研究倫理審査委員会

小林理事から研究倫理審査の申請がなかったので4月予定の委員会は開催しなかった旨報告があった。

## 2. 選挙管理委員会報告

畝委員長から第13回役員選挙の告示について説明があり，機関誌55巻3号に掲載した旨報告があった。

## 3. 第75回日本医学会定例評議員会について

2月20日に開催された第75回日本医学会定例評議員会に出席した近藤理事から，日本医学会役員選挙報告とおよび平成19年度医学会に新規加盟した学会について報告があった。

## 4. 名誉会員の推戴等について

近藤理事から名誉会員の候補者を5月中旬に事務局宛，推薦してほしい旨依頼があった。

## 5. その他

大井田理事から北川定謙名誉会員からの中富健康科学振興財団顕彰のお礼状の紹介と，日本循環器管理研究協議会から第21回日本循環器病予防セミナーの後援名義使用の依頼があり承諾した旨報告があった。

また，職場のメンタルヘルス関連学会連絡会議への参加とフォーラム2008 衛生薬学・環境トキシコロジーの協賛について検討した結果，どちらにも参加，協賛することとした。

以上で議事を終了し，實成理事長が閉会を宣した。

次回理事会は7月24日（木）東京厚生年金会館で1時半から開催の予定である。

## 平成20年度第2回日本公衆衛生学会理事会議事録

1. 日時 平成20年7月24日（火）13:30～16:30

2. 場所 東京厚生年金会館

3. 出席者 理事長 實成文彦  
 理事 相澤好治 阿彦忠之  
 遠藤 明 大井田隆  
 小林廉毅 近藤健文  
 篠崎英夫 澁谷いづみ  
 中垣晴男 中川秀昭  
 中村好一 平野かよ子  
 村嶋幸代 本橋 豊  
 柳川 洋 吉田勝美  
 (17人)

監事 岡崎 勲 宮武光吉  
 (2人)

### 委任状提出者

学会長・理事 畝 博  
 副会長 横倉義武 平田輝昭  
 阿部 亨 (3人)  
 理事 足立己幸 五十里明  
 上島弘嗣 岡本浩二

岸 玲子 高岡道雄  
児玉和紀 三浦宣彦

(8人)

オブザーバー

車谷典男 (奈良県立医科大学 教授)

谷原真一 (福岡大学医学部衛生学 准教授)

現在理事数29人 出席者17人 委任状提出者12人  
学会規定第13条第1項による定数に達したので、  
實成文彦理事長が議長となり開会を宣した。議事に  
先立ち實成理事長から挨拶があった。

#### 議事録署名人選出

議事録署名人に、遠藤 明、大井田隆、両理事が  
指名された。

#### 議 事

##### 第1号議案 第67回 (平成20年度) 日本公衆衛生学 会総会について

畝 博学会長欠席のため、谷原真一福岡大学医  
学部衛生学准教授から資料に基づき次の説明があっ  
た。

- 演題数は1,553題集まり、座長も決まった。
- 予想より応募演題が多かったため、分科会はす  
べて示説になった。
- プログラムはシンポジウム、特別講演と一般演  
題の発表が重ならないよう配慮した。

以上により、本議案は了承された。

##### 第2号議案 第68回 (平成21年度) 日本公衆衛生学 会総会について

車谷典男次期学会長から資料に基づき次の説明が  
あった。

- 奈良県を含めた関係者で準備委員会を開催した。
- 運営の委託先はコンペにより、コンベンション  
リンケージの関西支社に決定した。
- HPは67回総会終了後に立ち上げる。
- 学会総会のテーマは検討中である。
- 分科会の口演数を増やしたい。また、口演・示  
説から優秀発表を表彰したい。
- フォーラム開催の要望があれば、早めに教えて  
欲しい。

以上により、本議案は了承された。

##### 第3号議案 第69回 (平成22年度) 日本公衆衛生学 会総会について

大井田理事から東京都の技監に挨拶に行き、総会  
開催への協力を得ることができた。また、日本公衆  
衛生協会と共同で国際会議開催の企画もでているこ  
ともあり、一度準備会を開催したい旨の説明があっ  
た。

以上により、本議案は了承された。

##### 第4号議案 平成19年度事業報告および収支決算 (案)について

大井田庶務担当理事から平成19年度事業につい  
て、普通会员は8,421人で昨年より400人増えたこ  
と、名誉会員、役員の説明、理事会評議員会学会総  
会の開催、奨励事業、学会機関誌の刊行、総会抄録  
集の検索ページの作成について報告があった。

小林廉毅編集担当理事から編集委員会報告があっ  
た。

投稿数は減少しているが、メール等を使い審査結  
果の返信は早くなっている。

投稿は大学の公衆衛生学教室からは減っている  
が、保健所からは増加している。

柳川 洋委員長より21世紀の公衆衛生研究戦略委  
員会の報告があった。

小委員会を設置した。67回総会ではフォーラムを  
開催する予定で、現在報告書を作成中である。

上島弘嗣委員長、足立副委員長欠席のため、大井  
田理事から生涯学習・研修委員会報告があった。

専門職制度検討委員会と合同委員会を開催した。  
平成19年8月に論文の書き方研修会、10月の総会で  
公衆衛生行政研修フォーラムを開催した。

阿彦忠之委員長から地域保健医療福祉委員会報告  
があった。

11団体で活動する禁煙推進学術ネットワークに参  
加して、新幹線内の禁煙運動を進めた。また、感染  
症専門委員会では、新型インフルエンザの予防と対  
策に関する啓発用のパワーポイントをホームページ  
に掲載した。

村嶋幸代委員長から公衆衛生看護のあり方に関す  
る委員会報告があった。

平成19年度は4回の委員会を開催し、平成19年9  
月9日にはシンポジウムを10月の総会ではフォーラ  
ムを開催した。この委員会の活動のお陰もあり、本  
年3月には保健師の連絡会議を立ち上げることがで  
きた。

相澤好治委員長から専門職制度検討委員会報告が  
あった。

生涯学習・研修委員会と合同委員会を開催した。  
平成19年10月の総会ではフォーラムを開催した。

遠藤会計担当理事から平成19年度収支決算につい

て報告があった。

収入として

- 18年度以前の分を含め、8,867人の会費収入があった。
- 投稿数の減少により、会誌掲載料収入、投稿料収入が減少した。
- 財政調整積立預金は取り崩さなかった。
- 総会運営基金は取り崩して、この名目の基金は廃止した。
- 雑収入は雑誌データ利用許諾料金の増額による。

支出として

- 二重払いの会員に返金したため、支払手数料が増額した。
- 会議出席の諸謝金は4月の理事会・委員会までの支払いになり、その以降は廃止した。
- 委員会活動が活発だったため、調査活動費は増額した。
- 管理費の通信運搬費に雑誌送付分も含まれていたため、21年度予算では会誌発行費について検討することとした。

全体として

- 収支差額の2,742,288円は20年度に繰り越す。
- 4年前より赤字基調にしており、19年度も正味財産は300万円弱減少した。

宮武光吉監事から平成19年度事業報告および収支決算について、7月22日に岡崎 勲監事と監査を行った結果、適正に管理運営されているとの監査報告が行われた。本件については、審議の結果了承され、評議員会に諮り、総会に報告することとした。

#### 第5号議案 平成21年度事業計画および収支予算(案)について

大井田理事から平成21年度事業計画の説明があった。

現在第13期の役員選挙中のため、本日の案は暫定案で、新体制が決まり次第決定する旨説明があった。

遠藤理事から平成21年度収支予算について次の説明があった。

- 総合健康推進財団からの助成金は直接総会事務局に助成することとなった。
- 財政調整積立預金取崩収入は収支を合わせるために計上した。
- 編集費と会誌作成発送費に分けていた会誌発行費を一緒にすることとした。

以上により、本議案は了承され、評議員会に諮ることとした。

#### 第6号議案 名誉会員について

近藤名誉会員担当理事から、平成20年度の名誉会員候補者について説明があった。

検討の結果、次の方々を11月の評議員会、総会にはかることとした。

鈴木庄亮氏、佐藤 章氏、飯田澄美子氏

#### 第7号議案 その他

1. 公衆衛生関連学協会連絡協議会（仮称）の設立総会について

實成理事長から公衆衛生関連学協会連絡協議会（仮称）の設立について説明があった。連絡協議会からの設立についてのアンケート調査は、各理事・監事のご意見を基に概ね原案に賛成とし、9月2日の設立総会には、實成理事長が参加することとした。

以上により、本議案は了承された。

#### 報告事項

##### 1. 委員会報告

- 1) 21世紀の公衆衛生研究戦略委員会

本橋 豊小委員会委員長から5月29日開催の委員会報告と67回総会時のフォーラムについて報告があった。

柳川 洋委員長から報告書の進捗状況の説明があった。

- 2) 生涯学習・研修委員会

大井田理事から次の報告があった。

8月28日から30日の予定で「論文の書き方研修会」を埼玉県立大学で開催する。

地方会の助成は東海公衆衛生学会に申請の半額を助成することとし、信州公衆衛生学会からの申請はお断りした。

- 3) 地域保健医療福祉委員会

阿彦忠之委員長から禁煙推進学術ネットワークから「神奈川県禁煙条例の素案への賛意と要望」について参加の依頼があり、学会として参加することとした旨報告があった。

- 4) 公衆衛生看護のあり方に関する委員会

村嶋幸代委員長から今期の報告書作成状況と検討を重ねた看護基礎教育のカリキュラムについて、また本委員会には残された課題があり委員会継続の必要性について説明があった。

- 5) 専門職制度検討委員会

相澤好治委員長から7月14日に開催した生涯学習・研修委員会との合同委員会について報告があった。

規定案について検討し、資格は時間数ではなくポイント数で考えることとした。

ポイント数については各委員にアンケートをとっており、また、この資格の名称についても次回委員会で検討することとした。

## 2. 選挙管理委員会報告

畝委員長欠席のため大井田理事から評議員選挙の開票状況と理事・理事長選挙について報告があった。

白票は規定どおり無効とすることを確認した。

## 3. その他

### 1) 研究倫理審査委員会報告

近藤健文理事から7月22日開催の委員会の報告があった。

申請は2件あり、この委員会の必要を感じた。

次回委員会は10月14日の予定。

2) 大井田理事から、学会員に先物取引を勧誘する電話があり事務局に会員より連絡があった旨報告があった。

3) 大井田理事から下記の後援名義使用の許可をした旨報告があった。

- 第4回長寿医療センター国際シンポジウム
- ビル管理教育センター 第36回建築物環境衛生管理全国大会

以上で議事を終了し、實成理事長が閉会を宣した。

## 平成20年度第3回日本公衆衛生学会理事会

1. 日時 平成20年9月12日(金) 15:00~17:00

2. 場所 東京厚生年金会館5階 雅

3. 出席者 理事長 實成文彦  
 学会長・理事 畝 博  
 理事 磯 博康 遠藤 明  
 大井田隆 岸本泰子  
 近藤健文 佐甲 隆  
 佐藤眞一 篠崎英夫  
 田中久子 中川秀昭  
 高野健人 原田規章  
 平野かよ子 本橋 豊  
 村嶋幸代 (17人)

監事 宮武光吉 (1人)

委任状提出者

副会長 平田輝昭 阿部 亨  
 横倉義武 (3人)

理事 岡本浩二 角野文彦  
 川上憲人 小林廉毅  
 笹井康典 澁谷いづみ  
 橋本修二 武藤孝司  
 安村誠司 吉田勝美

渡辺達夫 (11人)

監事 岡崎 勲 (1人)

理事現在数31人 出席者17人 委任状提出者14人  
 オブザーバー

車谷典男 (奈良県立医科大学)

柳川 洋 (自治医科大学)

阿彦忠之 (山形県健康福祉部)

足立己幸 (食生態学実践フォーラム)

三浦宣彦 (埼玉県立大学)

学会規定第13条第1項による定数に達していることを確認の後、實成文彦理事長が議長となり開会を宣した。議事に先立ち實成理事長から新体制に対する抱負の挨拶があった。

## 議事録署名人選出

議事録署名人に、大井田隆、本橋豊両理事が指名された。

## 議事

### 第1号議案 第67回(平成20年度)日本公衆衛生学会総会について

畝 博学会長から演題集が出来上がり、抄録集は10月中旬に発送予定である。また、都道府県の分担金については議論が必要である旨説明があった。

以上により、本議案は了承された。

### 第2号議案 第68回(平成21年度)日本公衆衛生学会総会について

車谷次期学会長から前理事会から進行したこととして、館内は全面禁煙とし喫煙コーナーの灰皿は撤去すること、また、会場が2カ所に分かれているので、シャトルバスを運行することとした旨説明があった。

以上により、本議案は了承された。

### 第3号議案 第69回(平成22年度)日本公衆衛生学会総会について

大井田理事から第69回総会には正式には福岡の学会総会で決定するが、8月に東京都と東京都選出理事と職場が東京都の理事で準備会議をしたとの報告があった。

以上により、本議案は了承された。

### 第4号議案 新役員の役割分担(委員会)について

理事長から今期は継続と変革をテーマに考えており、新役員の役割分担について下記のとおり説明があった。

理事長代理 近藤健文

総務担当理事 庶務担当理事 大井田隆

会計担当理事 遠藤 明

広報担当理事 佐藤眞一

法人化問題担当理事 吉田勝美

名誉会員の推薦担当理事 中川秀昭

畝 博

近藤健文

編集担当理事	小林廉毅 橋本修二 中川秀昭	②生活習慣病専門委員会 委員長 畝 博 公衆衛生看護のあり方委員会 委員長 村嶋幸代 副委員長 平野かよ子 委員 遠藤 明 佐甲 隆
学術担当理事	磯 博康 畝 博 吉田勝美	専門職委員会 委員長 高野健人 副委員長 渡邊達夫 委員 小林廉毅 篠崎英夫 澁谷いづみ 田中久子 橋本修二 平野かよ子
日本医学会評議員	小林廉毅	
日本医学会用語委員会委員	小林廉毅	
日本医学会連絡委員	大井田隆	
公衆衛生関連学協会連絡協議会担当理事	安村誠司 高野健人	

## 委員会

編集委員会 委員長 甲斐一郎

## 研究倫理審査委員会

委員長 大久保一郎  
副委員長 玉腰暁子

## 倫理・行動規範委員会（未定）

## 専門職制度統括会議

相澤好治 専門職制度統括会議議長  
大井田隆 庶務担当理事  
遠藤 明 会計担当理事  
生涯学習・教育委員会委員長  
公衆衛生看護のあり方委員会委員長  
専門職委員会委員長

## 庶務・会計・広報連絡会議

大井田隆 庶務担当理事  
遠藤 明 会計担当理事  
佐藤眞一 広報担当理事

## 公衆衛生レポート委員会

委員長 原田規章  
副委員長 川上憲人  
委員 佐甲 隆

## 生涯学習・教育委員会

委員長 磯 博康  
副委員長 武藤孝司  
委員 岸本泰子 佐藤眞一  
田中久子 渡邊達夫

## 地域保健医療福祉委員会

委員長 本橋 豊  
副委員長 澁谷いづみ  
委員 畝 博 大井田隆  
角野文彦 岸本泰子  
村嶋幸代

## ①感染症専門委員会

委員長 角野文彦

各委員会は委員会規定に基づき構成され、次回以降の理事会で補充委員を推薦し理事長が委嘱する旨の提案があり、了承された。

## 報告事項

## 1. 選挙管理委員会報告

畝 博選挙管理委員長から資料を基に理事・理事長選挙の投票状況と理事長、理事の当選人について報告があった。

## 2. 新理事会への引き継ぎ事項

## 1) 平成19年度事業報告および収支決算

遠藤理事・大井田理事から7月の理事会のとおり説明があった

## 2) 平成21年度事業計画および収支予算

遠藤理事・大井田理事から7月の理事会のとおり説明があった

1), 2)は了承され11月の評議員会に諮ることとした。

## 3) 奨励賞について

畝委員長から4月の理事会のとおり説明があった。

## 4) 名誉会員について

近藤理事から7月の理事会のとおり説明があった。

了承されたため、11月の評議員会、総会に諮ることとなった。

## 5) 編集委員会

小林編集担当理事が欠席のため、大井田理事から7月の理事会のとおり報告があった。

## 6) 21世紀の公衆衛生研究戦略委員会

柳川委員長から7月の理事会のとおり報告があった。

## 7) 生涯学習・研修委員会

足立副委員長から7月の理事会のとおり報告があった。

## 8) 地域保健医療福祉委員会

阿彦委員長から7月の理事会のとおり報告があった。

9) 公衆衛生看護のあり方に関する委員会  
村嶋委員長から7月の理事会のとおり報告があった。

10) 専門職制度検討委員会  
相澤委員長から7月の理事会のとおり報告があった。

以上で議事を終了し、實成理事長が閉会を宣した。

次回理事会は11月4日10時から福岡国際会議場で開催する。

### 平成20年度第4回日本公衆衛生学会理事会

1. 日時 平成20年11月4日(火) 10:00~12:00

2. 場所 福岡国際会議場 会議室504+505

3. 出席者 理事長 實成文彦  
 学会長・理事 畝 博  
 理事 磯 博康 遠藤 明  
 大井田隆 川上憲人  
 小林廉毅 近藤健文  
 佐甲 隆 佐藤眞一  
 中川秀昭 高野健人  
 橋本修二 原田規章  
 平野かよ子 武藤孝司  
 本橋 豊 村嶋幸代  
 安村誠司 吉田勝美  
 渡邊達夫 (21人)

監事 宮武光吉 (1人)

委任状提出者

副会長 平田輝昭 阿部 亨  
 横倉義武 (3人)

理事 岡本浩二 角野文彦  
 岸本泰子 笹井康典  
 篠崎英夫 澁谷いづみ

田中久子 (7人)

監事 岡崎 勲 (1人)

理事現在数31人 出席者21人 委任状提出者10人  
オブザーバー

車谷典男(奈良県立医科大学教授)

学会規定第13条第1項による定数に達していることを確認の後、實成文彦理事長が議長となり開会を宣した。議事に先立ち實成理事長から新体制に対する抱負と畝学会長はじめ福岡県、福岡市、福岡大学等の総会開催関係者のみなさんに対する感謝の挨拶があった。

#### 議事録署名人選出

議事録署名人に、武藤孝司、遠藤 明両理事が指名され了承された。

#### 議事

##### 第1号議案 第67回(平成20年度)日本公衆衛生学会総会について

畝 博学会長から、今回の総会に対する協力のお礼と総会参加への歓迎の挨拶があった。演題発表が1,553題と予想より多くすべて示説にせざるをえなかったこと、また、予定の1.5倍のプログラムとなり盛りだくさんになったが、幅がひろがったとの報告があった。

以上により、本議案は了承された。

##### 第2号議案 第68回(平成21年度)日本公衆衛生学会総会について

車谷典男次期学会長から下記のとおり説明があった。

メインテーマは「健康をまもる社会基盤の再構築—安心・公正・交流—」とし、公衆衛生の「攻め」の転機にしたい。

記念講演と特別講演2題は決定した。一般公開シンポジウムには知事にも参加頂く。

懇親会は新公会堂の中庭で若草山を背景に野外での開催を考えている、収容人員は200人で会費は未定である。

以上により、本議案は了承された。

##### 第3号議案 第69回(平成22年度)日本公衆衛生学会総会について

實成理事長から、前回の理事会で承認された第69回日本公衆衛生学会総会(東京都で開催し、学会長は本学会の理事でもある日本大学医学部の大井田隆教授とする)について、本日午後開催の評議員会、明日開催の総会に諮る旨の提案があり、了承された。

大井田理事から、東京都の協力を得ながら準備を進めたい、会場は東京フォーラムをおさえているが、会場費が高額なため財政的には厳しいとの説明があった。

以上により、本議案は了承された。

##### 第4号議案 監事の推薦について

實成理事長から現監事の任期が本総会終了日までのため、新監事として、相澤好治先生、岸 玲子先生を推薦したい旨提案があり、この理事会において承認され次第、本日午後開催の評議員会に諮りたいとの説明があり、了承された。

##### 第5号議案 評議員会・総会議事について

大井田理事から資料に基づき、評議員会の議事進行と総会議事進行の確認が行われ、原案どおり了承された。

##### 第6号議案 平成21年度奨励賞について

車谷典男次期学会長から下記のとおり説明があった。

選考委員は、例年の委員構成にもとづき、委員長は学会長、副委員長は大井田次期学会長（予定）、岡本浩二理事（厚生労働省）、磯博康理事（学術担当理事）、澁谷いづみ理事（保健所長会）、佐藤眞一理事、小林廉毅理事（編集担当理事）にお願いしたい。また、奨励賞規定の改正により、機関誌11月号に会告として掲載し、3月末までの募集とする。

以上により、本議案は了承された。

#### 第7号議案 編集委員の交代について

小林編集担当理事から下記の説明があった。

編集委員長の任期が今年12月末となっており、現委員長の甲斐一郎東京大学医学部教授に留任をお願いしている。また、現編集委員の任期も今年の12月までであり、約半数の編集委員が交代することとなる。新編集委員候補者については、編集委員長、副委員長と担当理事で、地域と専門分野を考慮し選出したが、定員には達していないので増員の時には理事会に諮りたい。また、副編集長には、現在副委員長を務めている佐藤敏彦委員（北里大学医学部）と加藤則子委員（国立保健医療科学院）にお願いすることとしたい。

検討の結果、原案どおり了承された。

### 報告事項

#### 1. 委員会報告

##### 1) 編集委員会、研究倫理審査委員会

小林編集担当理事から下記の報告があった。

評議員会で報告する内容の紹介。

明日拡大編集委員会が開催される。

研究倫理審査委員会は11月11日に開催される。これまで2件の申請があり、1件は承認、1件は申請者に書き直しを依頼している。

報告の後、次のような意見が出た。

- 査読のレベルの均一化をはかって欲しい。
- 積極的に英文論文を掲載し、インパクトファクターがつくような雑誌にして欲しい。
- ジャーナルのあり方を編集委員会で検討していただければありがたい。

小林理事から英文の投稿は受けつけいるが、投稿数は少なく、インパクトファクターの取得は考えていない。上記の意見については編集委員会に伝える旨説明があった。

##### 1) 公衆衛生モニタリング・レポート委員会

原田規章委員長から設置規定と今後の活動方針について説明があった。

先進的な健康リスクについて情報収集・整理して、学会員と連携し学会機関誌とリンクしながら学術的観点からモニタリングを行い、責任あるレポー

トを発信していく。今後、委員を増員し活発に委員会活動を行う予定である。

##### 2) 教育・生涯学習委員会

磯博康委員長から委員会は12月15日に開催する旨と下記の報告があった。

大学、大学院、社会人の教育の充実を考えている。評判のよい論文の書き方研修会も含め新しい研修活動、学会機関誌とのリンク、ホームページの充実も図りたい。数人の委員の追加を考えている。

名古屋大学医学部公衆衛生学教室の教授選考が行われていないことを受けて、学会としても教授選を行うよう働きかけることとし、磯委員長が担当することとなった。

##### 3) 地域保健医療福祉委員会

本橋豊委員長から10月16日に開催した委員会の報告があった。

角野文彦委員長の感染症専門委員会と畝博委員長の生活習慣病専門委員会の委員を決めた。今年度はこの2つの専門委員会を中心に活動したい。

総会時のたばこのアンケートについては、これまでの経過もあることから、阿彦忠之前理事に協力を依頼し進めることとした。

##### 4) 公衆衛生看護のあり方に関する委員会

村嶋幸代委員長から下記の説明があった。

前期委員会の活動は報告書にまとめた。

今期は、卒後教育・現任教職等生涯教育について検討することとした。

##### 5) 専門職委員会

高野健人委員長から10月10日に開催された専門職制度統括会議の報告と明日2時から専門職委員会を開催する旨報告があった。

申請フォーマットを早々に作成したい旨説明があった。

### 2. その他

1) 大井田庶務担当理事から、環境省総合環境政策局より「平成20年度科学物質の環境リスクに関する国際シンポジウム」に対する協力名義使用の依頼があり、承諾した旨報告があった。

2) 安村誠司理事から日本学術会議と連携した公衆衛生関連学協会連絡協議会の動きについて報告があった。

9月2日に総会を開催し15団体の参加があった。今後この15団体と回答のあった8団体に、参加の意思を確認し代表者を報告してもらうよう、文書を出す予定である。

以上をもって、理事長が閉会を宣した。

次回理事会は平成21年2月3日（火）1時半から



東京厚生年金会館で行う。

### 平成20年度日本公衆衛生学会評議員会議事録

1. 日 時 平成20年11月4日(火) 13:30~15:00
2. 場 所 福岡国際会議場
3. 出席者 65人 委任状提出者 157人  
合計 222人 (現在員数 273人)

事務局から学会規定第15条2項による出席評議員が定足数に達し会議が有効に成立した旨の報告があった。

議事に先立ち畝学会長から歓迎の挨拶、實成文彦理事長から学会活動の報告と本総会開催のために協力いただいた関係各位に対する御礼の挨拶があった。

学会規定15条により畝学会長が議長となり議事に入った。

議事録署名人には、守山正樹評議員と吉田勝美理事が指名された。

### 報告事項

#### 1. 平成19年度会務報告

大井田隆庶務担当理事から下記の会務報告があった。

- 1) 19年度会員数が8,421人で昨年に比べ400人ほど増加している
- 2) 理事会等の会議
- 3) 学会総会
- 4) 奨励事業
- 5) 学会機関誌の発行
- 6) 総会抄録集の検索ページの作成

#### 2. 委員会報告

##### 1) 編集委員会報告

小林廉毅編集担当理事から次のとおり報告があった。

- 編集委員会は毎月1回開催し、拡大編集委員会を1回開催した。
- 平成19年度の投稿原稿数は和文論文105編、英文論文が7編あり、昨年より投稿数は減少している。
- 採用状況は、前年度以前の投稿分をふくめて採用50編、審査継続中68編、不採用35編で、そのうち英文は採用2編、審査継続中3編、不採用4編であった。
- 掲載論文数は55編、投稿から掲載までの期間は平均で9.9か月で、前年度よりかなり短くなっている。
- 投稿から1回目の返事は2.5か月かかるが、査読方法を変更した成果で前年度よりかなり短くなっている。採用から掲載までは若干のびているが、引用文献の修正等に時間がかかっている。
- 54巻4号から「情報ボックス」、54巻7号から編集委員の企画による公衆衛生関連のトピックスの

連載を開始したため総ページ数が増加している。

- この12月で現在の編集委員の任期が満了となるため、来年1月からの新編集委員再任9人新任9人が先ほどの理事会で承認された。編集委員長は甲斐一郎氏が留任することとなった。
- 2) 21世紀の公衆衛生研究戦略委員会  
本橋 豊副委員長から次のとおり報告があった。
    - 小委員会を含め4回委員会を開き、今年の総会ではフォーラム「21世紀の公衆衛生研究戦略を考える」を開催した。本委員会の活動を報告書にまとめた。
  - 3) 生涯学習・研修委員会  
上島弘嗣委員長が欠席のため大井田理事から次のとおり報告があった。
    - 「第2回公衆衛生活動・論文の書き方研修」を開催し、盛況に終了した。
    - 66回総会時に公衆衛生行政研修フォーラム「食育推進計画と公衆衛生」を開催した。
    - 東海公衆衛生学会の公衆衛生生涯学習・研修企画に対して助成を行った。
  - 4) 地域保健医療福祉委員会  
阿彦忠之委員長が欠席のため大井田副委員長から次のとおり報告があった。
    - 新型インフルエンザの予防と対策に関する啓発用パワーポイントを作成しホームページに載せ、誰でも使えるようにしている。
  - 5) 公衆衛生看護のあり方に関する委員会  
村嶋幸代委員長から次のとおり報告があった。
    - 4回の委員会を開き、9月9日にはシンポジウム「保健師の質保証」、今年の総会時にはフォーラム「保健師教育の臨地実習と卒後教育」を開催した。
    - 3年間の活動を報告書にまとめた。
  - 6) 専門職制度検討委員会  
相澤好治委員長から次のとおり報告があった。  
今年の評議員会で本制度の実施を認めていただいたので、具体的な内容について検討を進めてきた。生涯学習・研修委員会と合同委員会を開催し、両委員会の整合性をはかった。
- #### 3. 第13回役員選挙報告
- 畝 博選挙管理委員長から次のとおり報告があった。
- 第13回役員選挙は告示とおりに執り行われ、新評議員・理事長・理事は評議員会資料のとおりである。
- #### 4. その他
- 1) 公衆衛生学専門能力認定に関する規定(案)等について  
相澤好治委員長から委員会設置の経緯、公衆衛生専門職の能力、関連分野の専門医制度、現行の公衆

衛生専門職教育、本認定制度の目的、検討経過と公衆衛生専門能力認定に関する規定(案)について詳細な説明があった。

## 2) 会員の倫理・行動規範に関する規定

大井田隆理事から本規定の作成に至った経緯、規定について詳細な報告があった。

## 議事

**第1号議案 平成19年度収入支出決算(案)について**  
遠藤 明会計担当理事から、資料に基づき平成19年度収入支出決算(案)について次のとおり説明があった。

1. 収入の部で会費収入は、年度会員、それ以前の会員の合計8,867人分の入金があった。財政調整積立預金は取り崩さずにすんだが、総会運営基金を取り崩しこの名目の積立預金は廃止とした。

2. 支出のうち管理費、事業費は予算内で納めることができたが、調査活動費は活発な委員会活動を行ったため、支出増となった。

3. 収支差額2,742,288円は、平成20年度に繰り越すこととする。

4. 4年ほど前から正味財産を減額するよう、赤字基調にしており、19年度も2,990,289円の減額となった。

宮武光吉監事から平成19年度収入支出決算は適正であるとの監査報告がなされた。

以上の説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。

**第2号議案 平成21年度事業計画(案)ならびに平成21年度収入支出予算(案)について**

大井田理事から平成20年度の事業計画(案)について会議、第68回学会総会、奨励事業、会誌の発行、について説明があった。

委員会については、實成文彦理事長から説明があった。

編集委員会、研究倫理審査委員会、会員の倫理・行動規範に関する委員会は常設とし、他の5つの委員会は前期から活動を引き継ぎながら、名称を若干変えている。

- 公衆衛生モニタリング・レポート委員会 21世における公衆衛生研究戦略委員会報告を受け、健康リスクをモニタリングし、必要なことを迅速に会員に紹介する。
- 教育・生涯学習委員会は生涯学習・研修委員会を引き継いでいる。専門職委員会とも連携し会員の生涯学習、自己研鑽に寄与する一方、教育問題についても検討する。
- 地域保健医療福祉委員会 地域における保健医療福祉活動について検討する。重点的には感染

症、生活習慣病について専門委員会を設け活動する。

- 公衆衛生看護のあり方に関する委員会 これまででは保健師の教育問題に取り組んでいたが、卒業教育現任教育についても検討する。
- 専門職委員会 従来の委員会から検討をとった。

遠藤理事から、資料に基づき平成21年度収入支出予算(案)について次のとおり説明があった。

1. 収入の部では、会費収入は会員8,400人分を計上した。総合健康推進財団からの助成金は直接総会事務局に寄付されることとなった。財政調整積立預金取崩収入は赤字予算の補填のためである。

2. 支出の部として、事業費の会誌発行費を編集費と会誌作成発送費に分けずに計上することとした。調査活動費は、1,000,000円増額し、研修費は総会事務局に送る研修費分から総合健康推進財団からの50万円を減額した。

以上の説明の後、原案どおり承認された。

**第3号議案 監事の推薦について**

實成理事長から監事の任期が本総会で終了になるため、先程の理事会で新監事として北里大学医学部の相澤好治先生と北海道大学大学院医学系研究科の岸玲子先生が推薦された。

以上の説明の後、原案どおり承認された。

**第4号議案 名誉会員の推薦について**

近藤健文名誉会員担当理事から、理事会で承認された次の3名を名誉会員に推薦したい旨の提案があった。

飯田澄美子氏、佐藤 章氏、鈴木庄亮氏

以上の説明の後、承認され、明日開催の総会に諮ることになった。

**第5号議案 第69回(平成22年度)日本公衆衛生学会総会について**

實成理事長から、平成22年度の第69回学会総会は日本大学医学部社会医学系公衆衛生学分野教授の大井田隆先生に学会長をお願いし、東京都において開催したい旨提案があり、承認され、明日開催の総会に諮ることとなった。

なお、副学会長については学会長ならびに理事会に一任された。

以上で議事を終り、車谷典男次期学会長、および次々期学会長(予定)大井田隆日本大学医学部教授から挨拶があった後、議長が閉会を宣した。

## 平成20年度日本公衆衛生学会総会議事録

を宣した。

---

- I. 日 時 平成20年11月5日(水) 13:00~13:40  
II. 場 所 福岡国際会議場 メインホール  
学会規定第19条により畝 博学会長が議長となり開会を宣した。

総会議事に先立ち實成文彦理事長から、畝学会長をはじめ福岡県、福岡市、福岡大学等関係者に対する謝辞を含めた挨拶があったのち、議事に入った。

### III. 議 事

#### 会務報告

大井田隆庶務担当理事から、平成19年度の学会会員、名誉会員、役員会等の庶務に関する事項、会誌の発行状況の報告があり、遠藤明会計担当理事から、平成19年度の収支決算についてとおよびその会誌掲載について報告があった。

宮武光吉監事から監査報告があった。

引き続き、大井田理事から昨日の評議員会で承認された平成20年度事業計画、遠藤理事から平成20年度収入支出予算について報告があった。

#### 第1号議案 名誉会員の推薦について

實成理事長から、学会規定に基づく名誉会員の推薦内規により選考された次の3名の方々について、名誉会員に推薦したい旨提案があり、略歴が紹介され、満場一致で承認された。

飯田澄美子氏 佐藤 章氏 鈴木庄亮氏

#### 第2号議案 第69回(平成22年)日本公衆衛生学会総会について

實成理事長から、来年の第68回学会総会は平成21年10月21日から3日間、車谷典男奈良県立医科大学教授に学会長をお願いして開催する旨報告があった。

平成22年の第69回学会総会については、昨日の評議員会の推薦に基づき、学会長は大井田隆日本大学医学部教授にお願いし、東京都において開催したい旨提案がなされ、満場一致で承認された。なお、副学会長については学会長ならびに理事会に一任された。

### IV. 報告事項

#### 1. 公衆衛生専門能力認定等について

相澤好治専門職制度検討委員会委員長から、委員会設置の経緯、公衆衛生専門職の能力、関連分野の専門医制度、現行の公衆衛生専門職教育、本認定制度の目的、検討経過と公衆衛生専門能力認定に関する規定(案)について詳細な報告があった。(学会機関誌55巻12号参照)

以上で総会の審議を終了し、車谷次期学会長と大井田次々期学会長から挨拶があった後、議長が閉会

## 収 支 計 算 書 (案)

平成19年4月1日から20年3月31日まで

(単位:円)

科 目	平成19年度予算	決算額	差 異	備 考
(収入の部)				
1 会費収入	67,200,000	70,936,000	△3,736,000	8千円×8,860人 (19年度8,421人・67,368,000) (18年度以前347人・3,568,000)
2 会誌掲載料収入	2,000,000	1,558,930	441,070	日本公衆衛生雑誌への掲載料
3 会誌投稿料収入	650,000	574,850	75,150	日本公衆衛生雑誌への投稿料
4 会誌広告料収入	650,000	704,000	△54,000	日本公衆衛生雑誌の広告料
5 助成金収入	200,000	500,000	△300,000	総合健康推進財団
6 雑誌販売収入	2,000,000	2,230,820	△230,820	日本公衆衛生雑誌の販売
7 特定預金取崩収入	12,233,751	5,534,599	6,699,152	
1) 財政調整積立預金取崩収入	6,700,000	0	6,700,000	
2) 会員名簿積立預金取崩収入	2,000,000	2,000,000	0	
3) 総会運営基金取崩収入	3,533,751	3,534,599	△848	
8 雑収入	800,000	1,586,161	△786,161	
1) 雑収入	800,000	1,379,692	△579,692	雑誌データ利用許諾料金等
2) 受取利息	0	206,469	△206,469	利息
当期収入合計(A)	85,733,751	83,625,360	2,108,391	
前年度からの繰越金	0	2,702,330	△2,702,330	
収入合計(B)	85,733,751	86,327,690	△593,939	
(支出の部)				
管理費	29,862,000	29,185,468	676,532	
1 会議費	800,000	440,590	359,410	
1) 理事会費	400,000	290,065	109,935	会場費、資料作成費等
2) 評議員会費	100,000	115,500	△15,500	資料作成費等
3) 会議費	300,000	35,025	264,975	監査
2 旅費交通費	2,200,000	1,519,280	680,720	
1) 理事会出席旅費	1,600,000	980,180	619,820	役員旅費
2) その他旅費交通費	600,000	539,100	60,900	職員旅費
3 通信運搬費	1,300,000	1,723,195	△423,195	事務用郵便料、電話料
4 消耗品費	400,000	647,093	△247,093	事務用消耗品費
5 印刷製本費	400,000	622,850	△222,850	理事会等資料
6 支払手数料	650,000	848,740	△198,740	会費払込料金(加入者負担)等
7 諸謝金	800,000	139,986	660,014	理事会謝金
8 事務委託費	22,862,000	22,862,000	0	日本公衆衛生協会
9 雑費	450,000	381,734	68,266	保守料(パソコン・プリンター)
事業費	52,150,000	48,941,417	3,208,583	
1 奨励事業費	1,900,000	1,503,487	396,513	表彰、選考賞等
2 会誌発行費	41,250,000	36,928,199	4,321,801	
1) 編集費	4,750,000	5,049,647	△299,647	編集委員会費用、査読依頼費等
(1) 会議費	400,000	435,918	△35,918	
(2) 旅費交通費	1,000,000	1,118,200	△118,200	編集委員旅費
(3) 通信運搬費	950,000	742,350	207,650	査読原稿郵送料
(4) 消耗品費	50,000	46,069	3,931	
(5) 印刷製本費	850,000	1,660,860	△810,860	編集委員会等資料
(6) 諸謝金	1,500,000	1,046,250	453,750	査読委員等謝礼
2) 会誌作成発送費	30,500,000	26,098,582	4,401,418	雑誌作成・発送
(1) 印刷製本費	20,000,000	16,200,800	3,799,200	製本費、版下作成費等
(2) 通信運搬費	10,000,000	9,224,130	775,870	雑誌発送
(3) 雑費	500,000	673,652	△173,652	発送用ラベル
3) 会員名簿作成費	6,000,000	5,779,970	220,030	名簿作成・発送
3 調査活動費	4,000,000	5,280,048	△1,280,048	委員会活動費
4 研修費	2,000,000	2,229,683	△229,683	委員会・総会時の研修
5 総会負担金	3,000,000	3,000,000	0	総会負担金
選挙関係費	1,000,000	326,320	673,680	会議費・印刷費・郵送費等
IT化関係費	2,500,000	2,627,635	△127,635	通信回線費・機器保守料等
特定積立預金支出	0	2,504,562	△2,504,562	
1) 会員名簿積立預金支出	0	1,500,000	△1,500,000	
2) 選挙費用積立預金支出	0	1,000,000	△1,000,000	
3) 財政調整積立預金支出	0	0	0	
4) 利息繰入金	0	4,562	△4,562	
予備費	221,751	0	221,751	
当期支出合計(C)	85,733,751	83,585,402	2,148,349	
当期収支差額(A)-(C)	0	39,958	39,958	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	2,742,288	2,742,288	

## 貸借対照表

平成20年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金	額
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	65,211	
普通預金	6,893,479	
振替貯金	1,753,109	
未収入金	1,004,115	
前払金	3,000,000	
流動資産合計		12,715,914
2 固定資産		
選挙費用積立預金	4,005,075	
会員名簿積立預金	3,000,000	
財政調整積立預金	69,143,090	
固定資産合計		76,148,165
資産合計		88,864,079
II 負債の部		
流動負債		
未払金	7,643,626	
前受金	2,280,000	
仮受金	50,000	
流動負債合計		9,973,626
負債合計		9,973,626
III 正味財産の部		
正味財産		78,890,453
(内 当期正味財産増加分)		(△2,990,289)
負債及び正味財産合計		88,864,079

## 積立預金収支の部

平成19年4月1日から20年3月31日まで

1) 選挙費用積立預金 (単位：円)	3) 財政調整積立預金 (単位：円)																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">収入の部</th> <th colspan="2">支出の部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前年度繰越金</td> <td>3,000,723</td> <td>残高証明書手数料</td> <td>210</td> </tr> <tr> <td>19年度繰入</td> <td>1,000,000</td> <td>取崩額</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>受取利息</td> <td>4,562</td> <td>次年度繰越金</td> <td>4,005,075</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,005,285</td> <td>計</td> <td>4,005,285</td> </tr> </tbody> </table>	収入の部		支出の部		前年度繰越金	3,000,723	残高証明書手数料	210	19年度繰入	1,000,000	取崩額	0	受取利息	4,562	次年度繰越金	4,005,075	計	4,005,285	計	4,005,285	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">収入の部</th> <th colspan="2">支出の部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前年度繰越金</td> <td>69,143,090</td> <td>次年度繰越金</td> <td>69,143,090</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>69,143,090</td> <td>計</td> <td>69,143,090</td> </tr> </tbody> </table>	収入の部		支出の部		前年度繰越金	69,143,090	次年度繰越金	69,143,090	計	69,143,090	計	69,143,090
収入の部		支出の部																															
前年度繰越金	3,000,723	残高証明書手数料	210																														
19年度繰入	1,000,000	取崩額	0																														
受取利息	4,562	次年度繰越金	4,005,075																														
計	4,005,285	計	4,005,285																														
収入の部		支出の部																															
前年度繰越金	69,143,090	次年度繰越金	69,143,090																														
計	69,143,090	計	69,143,090																														
2) 会員名簿積立預金 (単位：円)	4) 総会運営基金 (単位：円)																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">収入の部</th> <th colspan="2">支出の部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前年度繰越金</td> <td>3,500,000</td> <td>次年度繰越金</td> <td>3,000,000</td> </tr> <tr> <td>19年度繰入</td> <td>1,500,000</td> <td>取崩額</td> <td>2,000,000</td> </tr> <tr> <td>受取利息</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5,000,000</td> <td>計</td> <td>5,000,000</td> </tr> </tbody> </table>	収入の部		支出の部		前年度繰越金	3,500,000	次年度繰越金	3,000,000	19年度繰入	1,500,000	取崩額	2,000,000	受取利息	0			計	5,000,000	計	5,000,000	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">収入の部</th> <th colspan="2">支出の部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前年度繰越金</td> <td>3,534,599</td> <td>取崩額</td> <td>3,534,599</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,534,599</td> <td>計</td> <td>3,534,599</td> </tr> </tbody> </table>	収入の部		支出の部		前年度繰越金	3,534,599	取崩額	3,534,599	計	3,534,599	計	3,534,599
収入の部		支出の部																															
前年度繰越金	3,500,000	次年度繰越金	3,000,000																														
19年度繰入	1,500,000	取崩額	2,000,000																														
受取利息	0																																
計	5,000,000	計	5,000,000																														
収入の部		支出の部																															
前年度繰越金	3,534,599	取崩額	3,534,599																														
計	3,534,599	計	3,534,599																														

## 財 産 目 録

平成20年3月31日現在

(単位：円)

科 目	摘 要	金 額
(資産の部)		
I 流動資産		
1 現金・預金		
現金	現金手許有高	65,211
普通預金	三井住友銀行新宿通支店	6,893,479
振替預金	ゆうちょ銀行	1,753,109
2 未収入金		
掲載料	3月号他掲載料	591,945
広告料	3月号他広告料	412,170
3 前払金	第67回総会事務局	3,000,000
	流動資産合計	12,715,914
II 固定資産		
選挙費用積立預金	三菱UFJ信託銀行新宿支店	4,005,075
会員名簿積立預金	三井住友銀行新宿通支店	3,000,000
財政調整積立預金	三井住友銀行東京公務部	69,143,090
	固定資産合計	76,148,165
	資 産 合 計	88,864,079
(負債の部)		
I 流動負債		
1 未払金	3月号印刷・発送他	7,643,626
2 前受金	20年度会費他	2,280,000
3 仮受金	広告料	50,000
	流動負債合計	9,973,626
	負 債 合 計	9,973,626
	正 味 財 産	78,890,453

## 平成19年度監査報告書

平成19年度日本公衆衛生学会事業報告書(案)及び収入支出決算書(案)に基づいて会計帳簿、証憑書類、預金通帳、関係書類等をもとに監査した結果、業務ならびに会計処理が適正に運営・管理され、資産が貸借対照表どおりに管理されていることを確認したので報告します。

平成20年7月22日

監事 宮 武 光 吉  
監事 岡 崎 勲

## 平成20年度第5回日本公衆衛生学会理事会議事録

1. 日時 平成21年2月3日(木) 13:30~16:30  
 2. 場所 東京厚生年金会館  
 3. 出席者 理事長 實成文彦  
 学会長 車谷典男  
 理事 磯 博康 畝 博  
 遠藤 明 大井田隆  
 岡本浩二 角野文彦  
 川上憲人 岸本泰子  
 小林廉毅 近藤健文  
 佐藤眞一 篠崎英夫  
 澁谷いづみ 高野健人  
 田中久子 橋本修二  
 原田規章 平野かよ子  
 本橋 豊 村嶋幸代  
 安村誠司 吉田勝美

(24人)

## 委任状提出者

- 副会長 平田輝昭 阿部 亨  
 横倉義武 (3人)  
 理事 佐甲 隆 中川秀昭  
 笹井康典 武藤孝司  
 渡邊達夫 (5人)  
 監事 相澤好治 岸 玲子

理事現在数32人 出席者24人 委任状提出者8人  
 学会規定第13条第1項による定数に達していることを確認の後、實成文彦理事長が議長となり開会を宣した。議事に先立ち實成理事長から挨拶があった。

## 議事録署名人の選出

議事録署名人に、佐藤眞一 吉田勝美両理事が指名された。

## 議事

## 第1号議案 第67回(平成20年度)日本公衆衛生学会総会について

畝 博学会長から、第67回日本公衆衛生学会総会について資料により説明があった。

参加者は3,250人、一般演題は18分科会で1,553題であり、演題数は増加しているが、参加者は減少気味である。

ポスター賞については、座長と選考委員に採点してもらい、最終的には学会長が選考した。十数題に1題の割合で、100題とした。

特定健診・特定保健指導について学会員がどのように考えているかアンケート調査をすることになり、学会機関誌55巻12号に掲載する。2月末を締切、3月に集計、結果は次回理事会で報告する。

決算報告については最終確定していないので、機

関誌掲載の最終報告については理事長と前学会長に一任することとなった。

以上により、本議案は了承された。

## 第2号議案 第68回(平成21年度)日本公衆衛生学会総会について

車谷典男学会長から資料に基づき第68回日本公衆衛生学会総会について説明があった。

準備は順調に進んでおり、2月17日に67回総会事務局と引継会を開く。

総会のタイムテーブルと福岡の実績に基づき修正した分科会名について説明の後、意見交換があり、20日のホームページの更新に間に合うよう各理事からメールで意見をもらうこととした。

最終日の午後に教育・生涯学習委員会主催のセミナーを開催する。

以上により、本議案は了承された。

## 第3号議案 第69回(平成22年度)日本公衆衛生学会総会について

大井田隆次期学会長から第69回日本公衆衛生学会総会について説明があった。

委託会社を早急に決め実行委員会、学術委員会を立ち上げ、テーマの決定とポスターの作成等に取りかかる予定で、東京都選出の理事・評議員の協力を得たい。

以上により、本議案は了承された。

## 第4号議案 第70回(平成23年度)日本公衆衛生学会総会について

理事長からこれまでの開催状況から地域ブロックの順番でみると東北・北海道で開催するのが順当であり、地域選出理事の本橋 豊理事に学会長をお願いし秋田県で開催してはどうか提案があった。

本橋理事から宿泊が一番心配であるが以前よりはよくなり、他の学会総会も経験しているので前向きに検討する旨回答があった。

以上により本議案は了承された。

## 第5号議案 会員の倫理・行動規範に関する委員会について

理事長から前回の理事会で「会員の倫理・行動規範に関する規定」が認められたので、委員会の設置について諮りたく、委員の人選を小林廉毅理事に依頼した旨説明があった。

小林理事から会員の倫理・行動規範に関する規定と委員についての説明があった。

以上により、本議案は了承された。

## 第6号議案 各委員会からの報告・審議事項

## 1. 編集委員会

小林編集担当理事から、新編集委員の紹介と4月からの新査読委員について検討中である旨報告があ

った。

## 2. 公衆衛生モニタリング・レポート委員会

原田規章委員長から1月16日開催の委員会の報告と学会からの情報発信のあり方について説明があった。

委員会報告等は理事会に諮りながら進めることとし、学会機関誌、ホームページ等活用することを考えている。

## 3. 地域保健医療福祉委員会

本橋 豊委員長から喫煙対策については公衆衛生モニタリング・レポート委員会とも連携し取り組んでいく旨説明があった。

### 感染症専門委員会

角野文彦委員長から1月24日開催の委員会について報告があった。

保健所との連携について、公衆衛生モニタリング・レポート委員会、地域保健医療福祉委員会でのように考えるか検討する必要がある。

### 生活習慣病専門委員会

畝 博委員長から委員の紹介と特定健診・特定保健指導のアンケート調査の結果を見て3月に委員会を開催する旨説明があった。

## 4. 教育・生涯学習委員会

磯 博康委員長から設置規定の説明と12月15日開催の委員会と国立保健医療科学院の成木弘子先生を委員に追加、また、名古屋大学に教授選考に関する要望書を出した後事態が進展している旨の報告があった。

## 5. 公衆衛生看護のあり方に関する委員会

村嶋幸代委員長から本日の午前中に開催した委員会の報告と保健師の質向上について全国衛生部長会、全国保健所長会等で説明した旨報告があった。

看護基礎教育の上に公衆衛生従事者の教育として、保健師教育は大学院2年とする要望を出すのであれば、4月の理事会までに準備することとなった。

## 6. 専門職委員会

高野健人委員長から11月5日、1月8日開催の委員会の経過とその際に決めた申請要項について説明があった。検討の結果、大略の基本線はこの申請要項に基づき進めることとした。

## 7. 研究倫理審査委員会

近藤健文理事から11月11日に研究倫理審査委員会を開催した旨報告があった。

## 8. 庶務・会計・広報連絡会議

佐藤眞一広報担当理事から本学会の広報について説明があり、今後、教育・生涯学習委員会のメンバーが広報委員会も兼ねて、広報活動について検討することとした。

以上により、本議案は了承された。

## 報告事項

1. 安村誠司理事から、公衆衛生関連学協会連絡協議会名簿について説明があった。

2. 岡本浩二理事から行政としても本学会と連携していきたいとの要望と、保健所長の資格要件について説明があった。

3. 大井田理事が途中中座したため佐藤理事から下記の後援名義使用を許可した旨報告があった。

- 第22回日本循環器予防セミナーの後援依頼
- ビル管理教育センター第36回建築物環境衛生管理全国大会の開催

4. 高野理事から「地域保健・地域医療分野における卒業後のキャリアパスウェイとその支援環境に関する国際フォーラム」について説明があった。

以上で議事を終了し、實成理事長が閉会を宣した。

次回理事会は、4月24日（金）13時半から東京厚生年金会館において開催する。